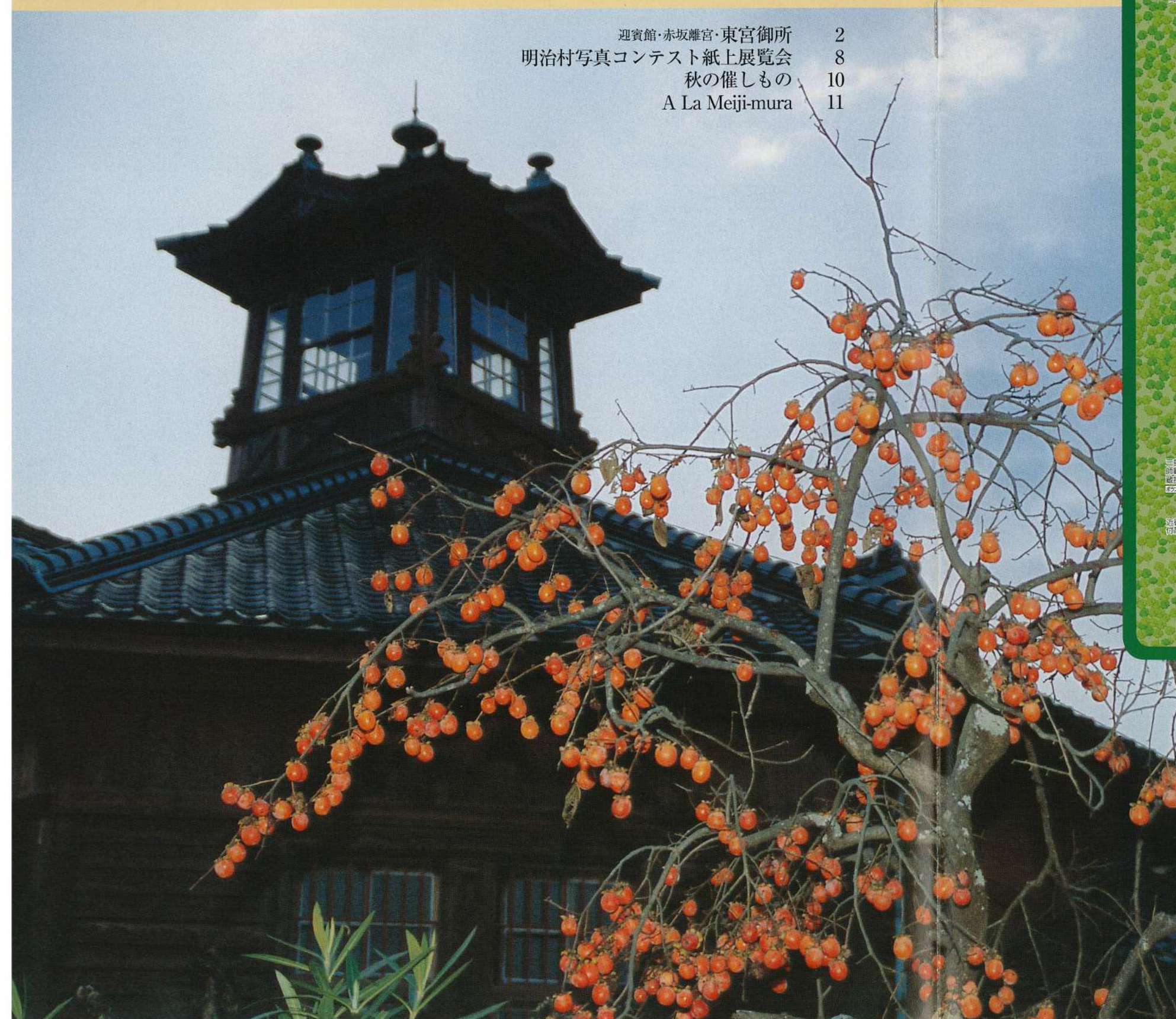


MEIJI MURA

明治村だより

Vol.57 2009 Autumn

迎賓館・赤坂離宮・東宮御所	2
明治村写真コンテスト紙上展覧会	8
秋の催しもの	10
A La Meiji-mura	11



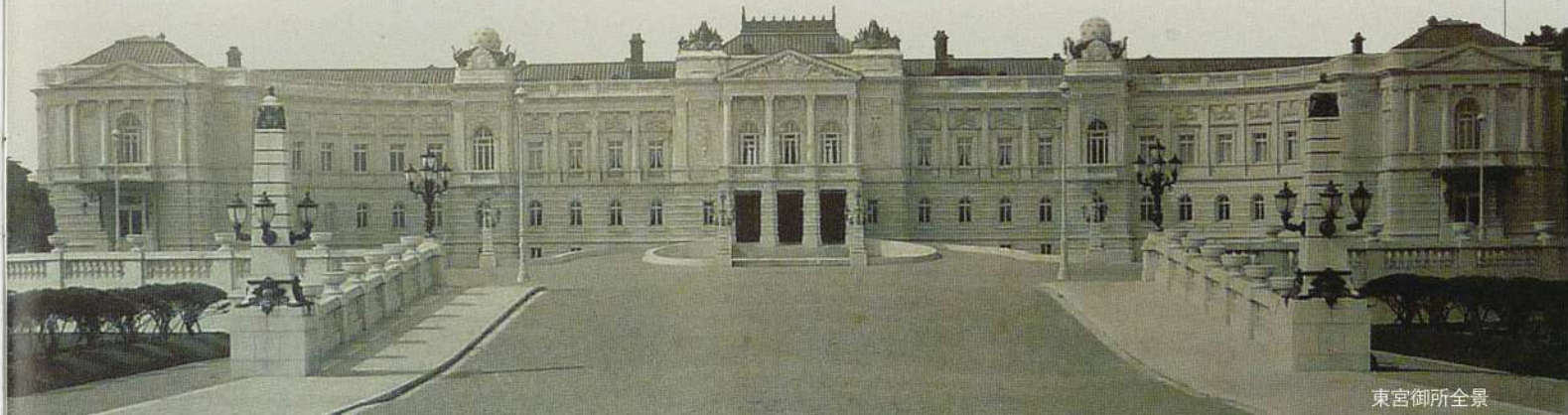
金沢監獄中央看守所・監房

表紙写真 「秋の夕暮れ」 丹羽明仁

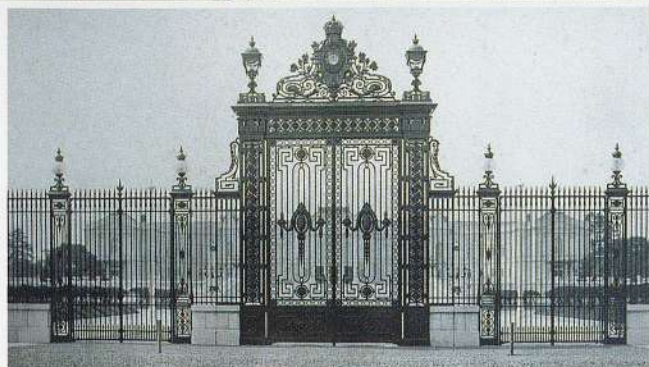
平成 21 年 9 月 20 日発行
 「明治村だより」第 57 号 (平成 21 年 秋)
 発行 博物館明治村
 〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地
 電話 (0568) 67-0314
<http://www.meijimura.com>
 製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第 58 号発行のお知らせ
 発行時期 平成 21 年 12 月初旬 (予定)
 申込方法 「明治村だより」第 58 号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料 140 円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

迎賓館・赤坂離宮・東宮御所



東宮御所全景



東宮御所正門

東京・元赤坂に、あたかもヨーロッパにいるのかと思ふような宮殿があります。それは今日「迎賓館」と呼ばれている建物です。迎賓館は現在は海外からの賓客等の接遇に使用されていますが、元来この建物は今からちょうど百年前の明治四十二年（一九〇九）年、「東宮御所」は殿下の御殿として且列国の皇族貴賓を招待し給ふに御不足なき外交的宮殿として規模を立て給ふ御思召の由にて」と建築雑誌第二一七号に記載されているように、当時の皇太子（嘉仁親王、後の大正天皇）のお住まい兼外国の賓客の接遇を行う東宮御所として建設されたものです。

博物館明治村には、宮内庁や総理府から受け入れた東宮御所旧蔵の家具、併せて四百点ほどが収蔵されています。本年が東宮御所創建からちょうど百年にあたることを記念して、十一月二十八日（土）から平成二十二年五月九日（日）まで、館蔵の家具の東宮御所旧蔵の家具の特別展を開催いたします。今号では、東宮御所の建設から迎賓館として使用されるまでを文書資料で紹介するとともに、竣工時のアルバムから主だった室内の様子をご紹介します。

では今から東宮御所御造営を「明治天皇記」および「建築雑誌」の二つの文献で辿ってみましょう。

明治二十二年十二月二日（明治天皇記）
赤坂離宮に東宮御所を置き、花御殿を以て之に充つ。

明治二十五年二月十九日（明治天皇記）
天皇、有朋及び正義を召し告げて曰く、即今東宮御所建築其の急を要せず。（後略）

明治三十一年四月（建築雑誌第一三六号）
片山氏一行の帰朝
本会会員片山東熊高山幸次郎足立鳩吉の三氏は欧米諸国巡回の上三月二十三日無事帰朝せられたり

明治三十一年八月十七日（明治天皇記）
この日宮内省中に東宮御所御造営局を置き（中略）枢密顧問官子爵杉孫七郎をして東宮御所御造

東宮御所の構想から起工まで

明治六（一八七三）年、当時の皇居（江戸城西ノ丸御殿）が炎上したため、東京赤坂の「赤坂離宮」（紀州和歌山藩主徳川茂承が所有し、徳川三家の三大大名庭園といわれた地）に、仮御所が設置されました。明治二十一年十月に新皇居（明治宮殿）が竣工し、両陛下がお移りになった後、この地は再び「赤坂離宮」と称されるようになりました。

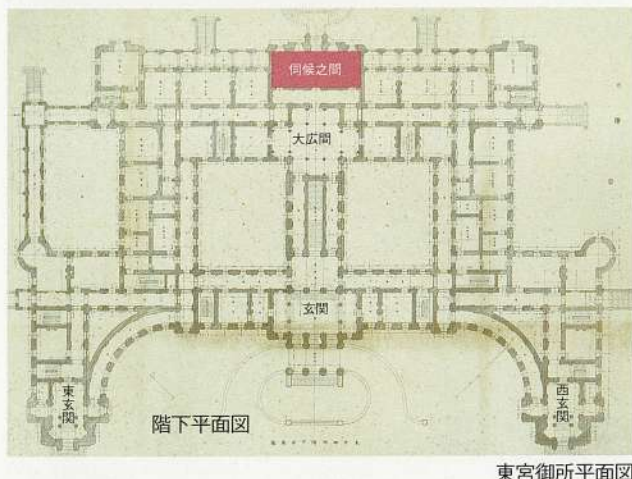
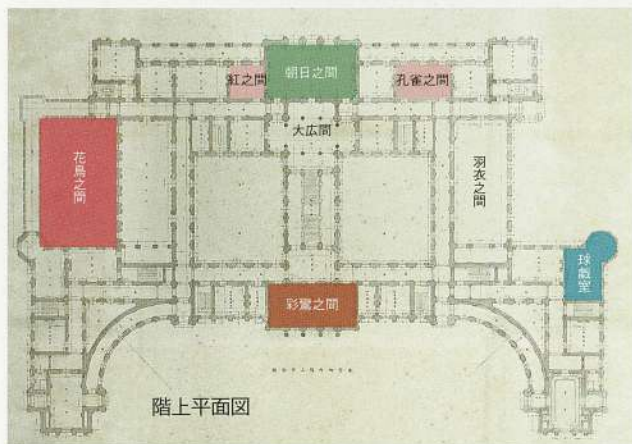
嘉仁親王は明治十八年より赤坂離宮の一部に住まわれ、新たな東宮御所の建設のスタートは、明治三十一（一八九八）年八月十七日に宮内省に「東宮御所御造営局」設置が定められたことから始まりです。明治三十二年七月二十八日、地鎮祭を執り行い、明治三十五年には地下および一階の煉瓦・石積み、翌三十六年二階の煉瓦・石積み、明治三十七年には室内工事に取掛かり、明治四十一年二月には大方の工事が終了したということで、マスコミを集めての内覧会が開催され、翌明治四十二年六月にはすべての会計処理も済み、工事は終了しました。実質的な着工から足掛け十年に及ぶ大工事の東宮御所建設ですが、当時の一般市民はその多くを知ることはほとんどありませんでした。現在残る当時の新聞を確認しても、明治四十一年の内覧会には各社こぞって参加したと見られ、各紙に記事となって残っていますが、最終的な竣工の期日や竣工祝いなど、完成した暁の催しなどについては記事になっておらず、謎に包まれたままです。

東宮御所として明治四十二年の竣工後に嘉仁親王がお住まいになることはなく、明治四十五（一九一〇）年、明治天皇の崩御後は、大正天皇として、明治宮殿（明治二十一年（一八八八）年竣工）に遷座され、この建物が東宮御所としての役割を果

たしたのは大正十二年八月から、裕仁親王（後の昭和天皇）が五年間お住まいになったのが最初で、その後、明仁親王（今上陛下）が昭和二十年十一月から約半年と、明治から昭和まで東宮がお住まいになったのは通算してもわずか六年に満たない期間でした。また迎賓施設として使用されたのは、大正十一（一九二二）年の英国のプリンス・オブ・ウェールズ殿下、昭和十（一九三五）年・昭和十五（一九四〇）年の満州国溥儀皇帝の三回のみです。

第二次世界大戦後は、宮内省から衆議院へと移管され、国会図書館・裁判官弾劾裁判所などとして使用されてきました。

戦後、外国の賓客を迎えるには白金迎賓館（現在、東京都迎賓館、旧朝香宮邸）が用いられてきましたが、手狭であるなどの理由から、新たな迎賓施設の要望が起り、約五年にわたる検討・審議の後、国会施設である旧赤坂離宮を改修し、迎賓館として使用することが閣議決定され、昭和四十三（一九六八）年改修に着手、昭和四十九（一九七四）年、迎賓館として新たなスタートを切り、今日に至っています。



東宮御所平面図

東宮御所内装仕様

	スタイル	家具製作地	壁装	カーテン	天井
朝日之間 (第一客室)	仏国18世紀末	フランス製	壁は石膏型に金色の御紋を装飾。壁間は京都西陣の金華山織で、襦子に天鵝絨の緑色花形織出模様	金華山織、上飾りは天鵝絨に金糸縫い	大油絵（フランス人が製作したといわれる。）
彩鸞之間 (第二客室)	アンピール	ドイツ製	上壁は金箔の金鷹、壁間には鏡を嵌め込む	西洋製錦肉色金華山織	石膏の飾型
孔雀之間 (備上西二之間)	仏国18世紀末		正面壁には今尾景年が描いた孔雀に牡丹、文鳥に桜を刺繍したもの飾る。その他の壁は石膏の型抜き	淡紅色無地石畳織地に紋織緑取	花鳥の油絵に左右に楽器を描く
紅之間 (備上東三之間)	仏国18世紀末		絹製の赤藍色草花模様襦子目織を張り、4箇所鏡を嵌め込む	淡紅色縞草花織出模様	楽器を描いた油絵
花鳥之間 (饗宴之間)	アンリ2世		板張の中に楕円形に30枚の七宝・食器棚左右の壁は果実禽鳥図ゴブラン織を貼り込む	フランス製ピロードに緑取縁	格天井にフランス人画家が描いた花弁鳥獸油絵36枚貼り込
球戯室	ルネサンス 16世紀末		絹製の納戸色 麗栗(ケシ)模様	絹製の橄欖(オリーブ)色織織浮出模様に、上飾りは刺繍模様ある天鵝絨	楕形木材に彩色を施したもの
伺候之間 (奥広間)	ドイツ製		紅色地飾草花模様縞子	飾縞牡丹草花模様織濃紅色縞子に上飾りは縫取模様天鵝絨	白色漆喰

営局長を、文書秘書官股野琢をして同局事務官内匠寮技師片山東熊をして同局技師を兼任せしめ、侍従子爵西辻公業を以て同局御用掛と為す

明治三十一年九月（建築雑誌第一四一号）
東宮御所御造営局
今般東宮御所御造営局を赤坂離宮内に設置せられたるが本会名誉員杉子爵は其局長に正員片山東熊君は技師に高山幸次郎足立鳩吉の両君は技師に樋口正峻木子清敬白川勝文朝倉清一の四君は御用掛を執れも今月拜命したり

華麗な宮殿の室内



紅之間 室内



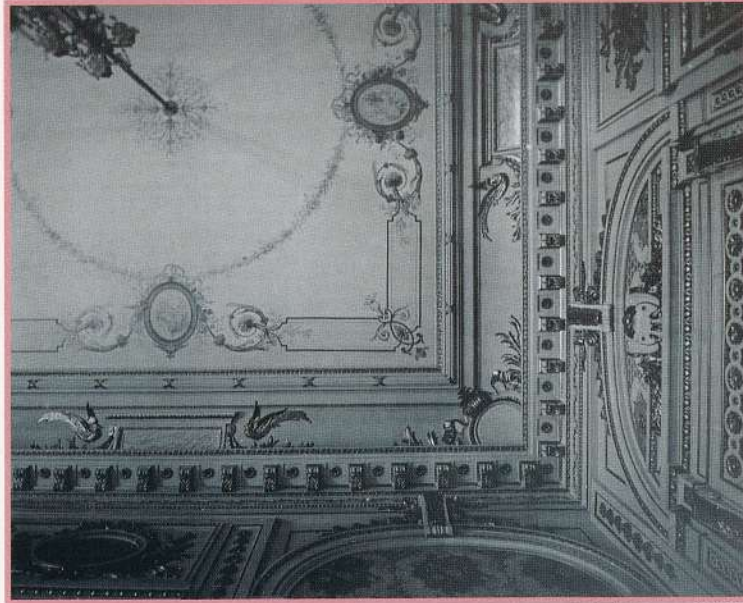
孔雀之間 室内



彩鸞之間 室内



朝日之間 室内



紅之間 天井装飾



孔雀之間 天井装飾



彩鸞之間 天井装飾



朝日之間 天井装飾

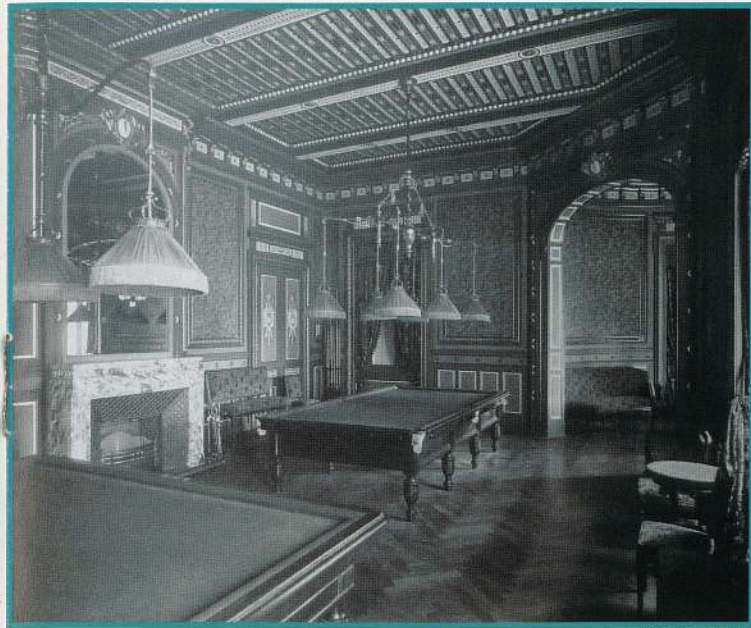
明治三十五年八月四日(明治天皇記)
東宮御所御造営局長男爵堤雅誼、初め東宮御所建築費予算二百五十万円を計上して以て聖裁を得しが、爾後物価漸次昂騰せるを以て、更に七十万円を追加し、別に階上装飾費百五十万円、其の他三十万円、予算通計五百万円となし、明治四十年を期して竣成せしめんとすることを上申す、内に日本館建築費の可とするや、東宮輔導威仁親王の意見を徴せんとし、侍従長侯爵徳大寺実則をして書を

明治三十一年十月(建築雑誌第一四二号)
東宮御所御造営
東宮御所は本会部議員片山東熊氏が義きに欧米各国を巡回し親しく調査せる所に基つき尤も完全を期する構造法に由りて設計せらるる筈にて工費は未だ確實し難きも概略三百万円と考へて大差なかるべしと思はる、六ヶ年継続工事の由にて、大體の図案は既に成り、過般東宮殿下の御覽に供したるに殿下にも頗る御満足遊ばされたるやに漏承る、又同御所の大部分は欧風の形式にて其一小部分は純正の日本風の形式なりと云ふ
明治三十一年十二月(建築雑誌第一四四号)
東宮御所御造営
本月二日より赤坂御所跡に建設あるにより直ちに現建物取毀に着手せられたる由なるか新築御所建物雛形は既に出来たりと云ふ
明治三十二年三月(建築雑誌第一四七号)
東宮御所の御新営
東宮御所の御新営に就ては既に赤坂離宮内に御造営事務局を置かれ杉子爵其局長として専ら計画中なり旧御殿は取り崩しに着手したり其余材は日光田母沢園の御用邸立増用に充てられ其他は異日の用途に保存せらるる(後略)
明治三十二年六月(建築雑誌第一五〇号)
東宮御所御造営
(前略)我が国古代の建築と欧州各国の風とを参酌することは異議無く決し扱其經營総額は如何と云ふに六ヶ年の星霜を期して御造営ある事と云ひ大切なる建築の事なれば輕易には定められず先づ二百五十万円位を標準として首尾能く落成を期したしとの議もある趣きなるも未だ確定せしと云ふにあらざる尚製図の出来あがりし上にて鄭重に審議せらるる筈なりと云ふ

片山博士
東宮御造営局の用務を帯びて再び米国に出張せらるる但し往復二三ヶ月にして帰朝せらるる由
明治三十二年七月二十八日(明治天皇記)
東宮御所を赤坂離宮内に造営せんとするを以て、是の日地鎮祭を行ふ
明治三十二年十一月(建築雑誌第一五五号)
片山博士帰朝の途の就く
赤坂御所御造営建築主任たる工学博士片山東熊氏は過般來取調への為米国へ出張中なるが去る十月廿日バンクーバーを出発帰朝の途に就かれたる由なれば近々帰朝せらるべし
明治三十五年五月(建築雑誌第一八五号)
東宮御所の御造営
東宮御所御造営は本月九日を以て柱石敷設式を挙行せり、同工事は明治三十二年七月地鎮祭執行以來工事著しく程を進め昨年中悉皆鉄骨構造を終へ刻下側石上壁石積に着手中なり、坪数は約千八百坪にして外部は重に茨城県若林産の花崗石を以て彫刻し屋根は悉皆銅葺なりと云ふ、外部は大概明後三十七年中には出来すべき予定なる由なれども内部の修飾及附属物等全体の出来迄には尚ほ六七十年の長年月を要すと云ふ



花鳥之間 室内



球戯室 室内



伺候之間 室内

親王に贈りて以て旨を伝へしめたまふ。
明治三十五年十二月二十七日(明治天皇記)

東宮御所造営の事につきて(中略)今後経費の増額及び工事年度の延期の認め難きを告げて(中略)抑々東宮御所造営に費やす所たるや、実に帝室未曾有の巨費にして、当初二百五十万円の予算なりしもの、逐次増加して今や正に五百万円を計上す(中略)自今以後重ねてこの如きの乞あるを許さずの厳命あり、蓋し光頭の訓示を發せる所以なり

明治三十六年一月九日(明治天皇記)
東宮御所御造営局技監片山東熊を欧米各国に遣はし、東宮御所洋館内部裝飾及び建築上の事に関して調査せしめんとす(中略)特に去年十二月宮内大臣の東宮御所御造営局長及び内蔵頭に下す所の訓示を示し、以て其の旨趣を体し事に処せしむ
明治三十六年九月(建築雑誌第二〇一七号)
東宮御所御造営工事の進捗

同工事は其後着々進捗し鉄骨の据付全く終り煉瓦積工事も大部分竣工の有様にて目下階下板張に着手中なり全部の竣工を見るは明治四十年の予定なる由又同御所は悉皆純粹の西洋造にて当初御所の一部に日本館御造営の設計ありしも御中止に相成りたりと

明治三十八年一月号(建築雑誌第二一七号)
御造営中の東宮御所
目下御造営中の東宮御所は殿下の御殿として且列国の皇族貴賓を招待し給ふに御不足なき外交的宮殿として規模を立て給ふ御召召の由にて片山博士を差遣して欧米各国の有名なる宮殿を委細に調査せしめ給ひし上去る三十一年八月御造営局開局翌春工事に着手し爾來夜を日につきての結果御殿外部の建築は目下六分通り成功し目下室内の

御礎の動くことなしといふ御殿内には地下室あり暖房あり電気室あり其他あらゆる設備を欠かず殊に起工に際しては片山技監及び技師数名を再度まで欧米に派遣して彼国の有名なる大建築物並に宮殿等を視察調査せしめ斯て其粹を蒐め長を採りて局長以下何れも一生の心血を注ぎたるものなれば西洋はいざ知らず東洋に於ては実に唯一の最大建築物と誇るに足るべく且つ亦実に此御造営の余光は我国の工業界に直接間接に大利益を与へたる(中略)用材は外国に取りたれども御室内の裝飾品即ち織物類其他は多く内地の当業者に調整方を命ぜられ是亦た非常なる好果を斯界に与へたり目下残る所は此裝飾のみとなり夫れさへ既に完成したる御室もあるよしなれば愈々東宮殿下の御遷座ましますは今年中秋の頃なるべしと申す
明治四十一年六月十五日(明治天皇記)

是れより先、東宮御所の造営全く成れるを以て、去月十四日主殿寮をして之れを主管せしむ、(後略)

以上二種類の資料から、東宮御所御造営局(以下、御造営局)設置以前に、後に御造営局技監となる片山東熊ら技術者を欧米へ派遣し、宮殿建設のための調査をさせていたことがわかります。このため明治三十一年の建築雑誌に「東宮殿下：御満足遊ばされたるや」と記載があるように、御造営局設置の極初期に、嘉仁親王にご満足いただけるプランができあがっていたと推察されます。

また東宮御所は創建から昭和の大改修までは「洋館」しか存在していませんでしたが、当初の計画段階ではお住まいを和風にするか洋風にするか議論があったようですが、結局当初二百五十万円ほどとされていた予算が、その倍の約五百万円を超える見込

裝飾方式に就き詮議中の由なり今其模様を大略記述すれば御殿大の建築方式は英国風にもあらず仏国風にもあらず各国の長所を斟酌して按を立てたるにて其総坪数は約千六百坪許地下室共に三層の結構にて用材は鉄の梁柱、花崗石の外壁、煉瓦石の内壁を使用し其地上よりの高さは塔尖の最高なる部分にて大凡三十間低き部分にて大凡二十間中庭は二箇所に設けあり其鉄材は亜米利加より輸入したるものにて花崗石は常陸産約十切を費し煉瓦は日本煉瓦会社より納め約千二百萬本を要せしとぞ地下室は重に機械室、大膳室其他各種の物置、仕事場等階上は御座所、御化粧ノ間、大広間、御学問所、舞踏室、食堂、溜ノ間等結構完美の宮殿なりとぞ

明治三十九年十二月二十八日(明治天皇記)
東宮御所造営工事概ね成れるを以て、今月三十一日を限り、東宮御所御造営局官制を廢し、残務を内匠寮に移さんとす(後略)
明治三十九年九月(建築雑誌第二三三七号)
東宮御所の御工程

(前略)目下外部の工事は大抵落成し尚御屋根高く御裝置の鍍金仕上げ鳳凰の御彫刻物一対其他御粧飾備付け等に着手中なるが御内部は御床並に天井、壁、階段等孰も手入余程進行したり今其の御模様的一端を伺ひ奉るに表御車寄階上御入口は正面と左右両側とに分たれ都合三面の御扉に付精煉したる細き鋼鉄を縦格子に取組み其全面天地左右に鍍金尽の菊桐の大なる花模様数十点を影ばめあり其御門扉内面左右の御通路及び御廊廓の御床には蠟石陶器或は模様細工を組み出されたる着色の石材等を用ひあり其結構の優雅なる一々数ふるに暇なし此の如く東宮御所の御工程は今や既に其過半を竣り明四十年十二月を以て全部落成を告ぐ

みとなった明治三十五年以降、日本館建築計画は頓挫し、さらに明治天皇からは「儉徳」との厳しいお言葉が発せられることとなりました。

ネオ・バロック式と呼ばれる外観の意匠は、技監の片山らが欧米で数多くの宮殿を視察した上で、「其粹を蒐め長を採りて」と、折衷主義建築の典型ともいえるもので、唯一のモデルを範に取ったものではないことをうかがわせます。さらに「用材は外国に取りたれども御室内の裝飾品即ち織物其他は多く内地の当業者に調製方を命ぜられ是亦た非常なる好果を斯界に与へたり」とあるように、国内の産業振興を目論んでか、カーテンや壁装用の裂地は見本をフランスなどから輸入し、国内のいくつかのメーカーに試織させ、納品させています。これは当時の会計の文書にも多く記載が遺されています。

また、この二つの文書には現れていませんが、黒田清輝・浅井忠・渡辺省亭など当時日本の美術界の中心的人物らに、室内の裝飾画を依頼するとともに、「宮殿室内裝飾調査のため」という名目で、ヨーロッパへ派遣し、宮殿裝飾のみならず、日本美術の発展に寄与したことも意義深いことと考えることが出来ます。

次号では文書などに記載された室内の仕様などについてご紹介いたします。

【参考文献】

- 「赤坂離宮写真帖」
- 「迎賓館赤坂離宮改修記録」一九七七、迎賓館
- (社)日本工学会「明治工業史、建築篇」一九六八
- 鈴木博之(監修)「皇室建築、内匠寮の人と作品」二〇〇五、建築画報社
- 小沢朝江「明治の皇室建築」二〇〇八、吉川弘文館

〈予告〉
特別展「華麗なる宮殿の家具」(仮称)
会期：十一月二十八日(土)
〜平成二十二年五月九日(日)
会場：三重県庁舎(博物館明治村内)

これらの入賞作品は9月19日(土)～11月29日(日)、東山梨郡役所2階にて展示いたします。是非ご覧ください。

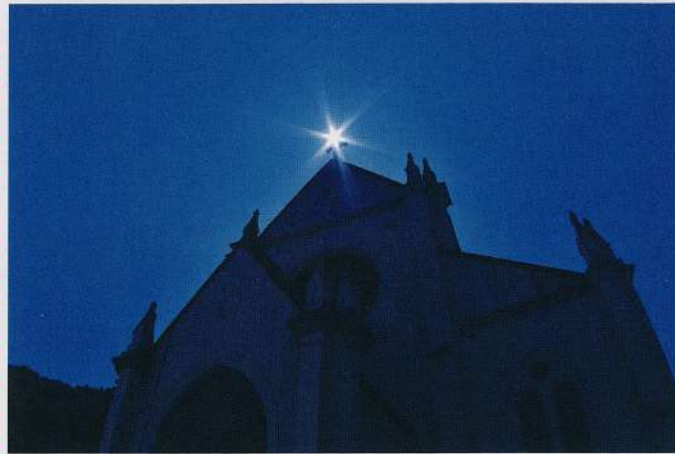
特選



「達人」 藤波 護 愛知県豊田市



「輝きの塔」 杉山 桂 愛知県津島市



「神秘の教会」 梅村謙次 愛知県岩倉市



「秋に囲まれて」 水野廣之 愛知県瀬戸市

平成21年度 明治村写真コンテスト「明治村百景」募集要項

- ・テーマ：明治村を表す作品
明治村の四季折々の美しさや賑わい、明治村を楽しむ人々の心温まる風景やイベントの様子
- ・表彰式/写真展：平成22年秋を予定
- ・賞：明治村大賞…1点(賞金10万円)
推薦…3点(賞金3万円)
特選…4点(賞金2万円)
協賛会社賞…7点(富士フィルム株式会社、ハクバ写真産業株式会社を予定)
- ・応募期間：平成21年7月1日(水)～平成22年6月30日(水)
- ・規定：所定の事項を記載した応募票を添付。
一人何点でも応募可(ただし、ひとり一賞)。
カラープリント 四ツ切・ワイド四ツ切(デジタルの場合はA4サイズも可)。単写真のみ。
デジタルは色彩の調整程度の画像処理は可。
- ・締め切り：平成22年6月30日(水)(当日消印有効)
- ・入選…15点
- ・主催：博物館 明治村
- ・応募先：〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地 博物館明治村写真コンテスト係

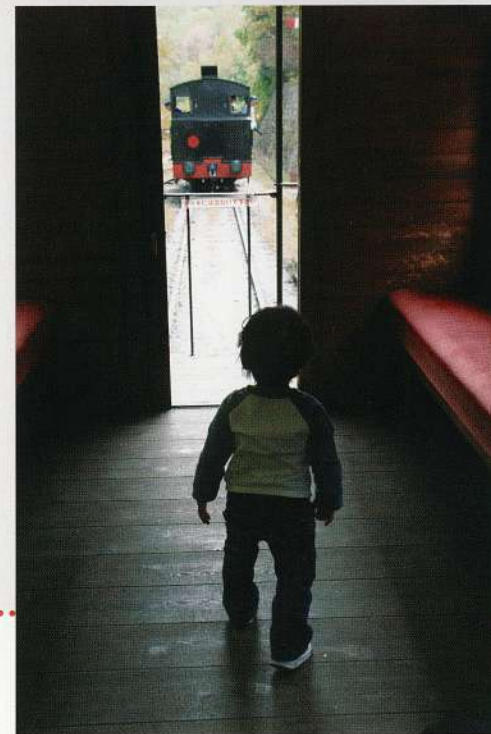
大賞



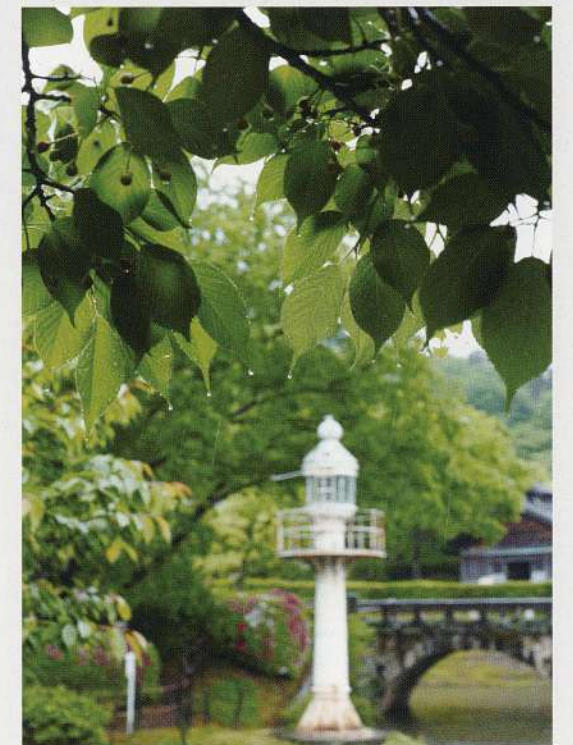
「金澤刑務所」 風 雅也 愛知県名古屋市



「秋が広がる」 銀崎宣広 兵庫県神戸市



「はじめて見る汽車」 西部信行 岐阜県関市



「雨の風情」 大矢信吾 愛知県江南市

明治村写真コンテスト
紙上展覧会

推薦



写真2 「変り釜敷梅鉢」



写真3 「分銅に三」



写真4 「分銅に三」

さらには、建物の裏の重厚な扉には富士銀行の行章(写真7)を見ることが出来ます。昭和二十三年(一九四八)年、財閥解体の政策により、安田銀行から富士銀行に行名が改められました。新行名は、行員にアンケートをとり決定され、新しい行章も行員から募集し決定されたものです。富士山を圖案化したもので、三つの山はそれぞれ取引先と株主



写真5 玄関天井飾り



写真6 室内の天井装飾



写真7 富士銀行の行章

レンガ通り二丁目二十番地に、明治四十(一九〇七)年に建設された伝統的な土蔵造の安田銀行会津支店(写真1)が建っています。太い柱を厚い土壁で塗り込んだ土蔵造は、火災に強い特徴を持ちます。「銀行」という言葉がまだ耳慣れなかった頃、人々からお金を預かるためにはさまざまな面で安心感を示す必要があったことから、「土蔵造」という伝統的な工法により建物にも安定感を求めたのではないのでしょうか。

「分銅」は銀行の前身である両替商にとって大切な道具であったことから、両替商の看板(図1)に多く描かれました(ちなみに、銀行の地図記号も「分銅」を表しています)。また「三」は、安田銀行の創設者・安田善次郎の祖先が平安時代の高名な学者、三善清行であったこと由来します。三善清行は、幼少の頃から学問に励み、文章博士兼大学頭を

家紋と行章

●安田銀行会津支店(2丁目20番地)



写真1

実はこの建物は随所に建物にちなんだ文様が配られています。今回はふだん見過ごされがちな、これらの文様をご紹介します。まず玄関中央の瓦には、安田家の家紋「変り釜敷梅鉢」(写真2)を見ることが出来ます。ついで軒先の瓦(写真3)、建物の横にある換気口(写真4)には、安田銀行創業以来の行章(銀行のマーク)「分銅に三」が用いられています。「分銅」は銀行の前身である両替商にとって大切な道具であったことから、両替商の看板(図1)に多く描かれました(ちなみに、銀行の地図記号も「分銅」を表しています)。また「三」は、安田銀行の創設者・安田善次郎の祖先が平安時代の高名な学者、三善清行であったこと由来します。三善清行は、幼少の頃から学問に励み、文章博士兼大学頭を

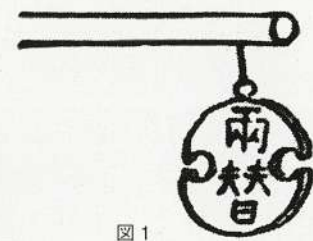


図1

経て参議兼宮内卿となり、延喜十四(九一四)年には醍醐天皇に「意見封事十二箇条」を提出し、具体的な問題と取りあげて対策を述べた有名な漢学者です。安田善次郎はこの二つを組み合わせた「分銅に三」を、自身の興した銀行の行章としたわけです。「分銅に三」は、純粋な和風の装飾ですが、玄関の天井中心飾り(写真5)は、「分銅に三」の文様の一部を巧みに円形に配置して、西洋風なものとしています。屋内の営業室の天井装飾(写真6)も西洋風の意匠を取り込んだもので、明治を象徴する「和洋折衷」の意匠であるといえます。

と従業員を、周囲の円形は貨幣を表しています。元治元(一八六四)年、安田善次郎が安田屋を開業して両替商を始め、安田商店、合本安田銀行へと発展し、明治二十六(一八九三)年、合資会社安田銀行へ改組された時から、富士銀行へと姿を変えていった時代の変遷を「分銅に三」は見つめ続けています。玄関先を見上げながら、足を踏み入れていただき、和と洋の意匠が巧みに取り入れられた店内もお楽しみください。

【参考文献】

- 「富士銀行八十年史」
- 「安田生命百年史」
- 「安田保善社とその関係事業史」
- 「外人の見た幕末・明治初期」 日本図会

★村の秋祭り2009★

明治×グルメ博

期間：平成21年9月19日(土)～11月29日(日)

秋祭りイベント

明治×グルメ博

明治ゆかりのカレーフェア

明治以降、最も家庭に普及し愛された料理の一つである「カレー」。明治の味を今に引き継ぐさまざまなカレーをご紹介します。

偉人の愛したグルメ

夏目漱石や石川啄木など明治の偉人が好んで食べたグルメや偉人ゆかりのグルメをご紹介します。

小説『食道楽』のグルメ

豊橋出身の小説家・村井弦斎が著し明治時代に大ベストセラーとなった恋愛グルメ小説『食道楽』で紹介されているレシピを元に再現・創作したメニュー。

文明開化のグルメ

明治時代に登場したハイカラ料理をご紹介します。

グルメ講演会 (聖ザビエル天主堂) (無料)

■「小説食道楽」に見る明治のグルメ

9月19日(土) 14:30～

講師：黒岩比佐子氏 (ノンフィクション作家)
明治の食文化に関する著書多数 『「食道楽」の村井弦斎』で2004年度サントリー学芸賞を受賞、『編集者 国木田独歩の時代』で2008年度角川財団学芸賞を受賞。

■「猫の家の台所—漱石と明治食文化—」

11月3日(祝) 14:30～

講師：藤森清氏 (金城学院大学文学部教授)
日本近代文学を研究し、著書に『漱石のレシピ』等。

博物館明治村「秋の文化イベント」

特別公開!

「帝国ホテル中央玄関を廻る」【予約定員制】

普段は非公開の3階部分を特別公開ご案内いたします。

- 開催日/ 10月4日(日)・12日(祝)・18日(日) 11月3日(祝)・15日(日)
- 時間/ 13:30～15:00 ■定員/ 各日15名
- 参加費/ 1,000円(星茶代金)
- ※申込受付は各開催日14日前から3日前まで。



帝国ホテル中央玄関内部

明治村建物講座 (第四高等学校物理化学教室)

明治村の建築担当が、明治村の建物の見どころを解りやすく説明。

- 開催日/ 10月17日(土)・31日(土)、11月14日(土)
- 時間/ 11:00～12:00(無料) ■定員/ 50名

品川燈台特別公開

「燈台記念日(11月1日)」にちなみ、重要文化財品川燈台内部を特別公開! あわせて、菅島燈台附属官舎内に最新の航路標識などを特別展示いたします。

- 開催日/ 10月31日(土)・11月1日(日)
- 協力/ 第四管区海上保安本部交通部・(社)燈光会

小沢村長講演会「長講一席小沢昭一的ころ」

小沢村長が来村し、大いに語ります!

- 開催日/ 10月10日(土) 14:00～(無料) (聖ザビエル天主堂)

明治村植物探訪【予約定員制】

ボランティアガイドの梅村隆氏が、明治村の植物を案内するガイドツアー。

- 開催日/ 10月4日(日)・11日(日)・11月15日(日)・22日(日)
- 時間/ 13:00～14:30(無料) ※申込受付は各開催日3日前まで
- 定員/ 各日20名

明治が生んだ世界の偉人

「野口英世博士記念展」

明治9年福島県猪苗代に生まれ、明治から昭和初期に世界を駆け巡った細菌学者・野口英世。この秋、博物館明治村によみがえります!!

- (三重県庁舎1階)
- 開催日/ 11月21日(土)～23日(祝)
- 協力/ 野口英世記念館

試験管を持つ野口博士

※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

お問い合わせ先

<http://www.meijimura.com/> または 0568-67-0314